

# 厚生文教委員会 行政視察報告書

花島志保

視察日程 2026年5月21日(木曜日)

視察先 岡山県真庭市(吉縁起村協議会)

《岡山県真庭市吉地区における地域づくりについて》



## 1. 視察の概要

吉地区は高齢化率 56%の中山間地域であり、平成 26 年には小学校が廃校となり、翌年には郵便局も廃止された。さらに公民館もなくなり住民が集う機会は月一回の常会のみとなったり、バス路線の廃止により買い物や通院にも支障が出たりす

るなど地域の活力低下が大きな課題となっていた。また、道路事情の変化により岡山市へ向かう車の交通量は増えたものの、素通りされるだけの地域になっていた。

こうした状況の中で「このままではいけない」という住民の危機感から地域づくりが始まった。

## 2.具体的な取り組み

兼業農家や大工、土建業、会社員など、多様な職種の有志 15 人が集まり、1 人 5000 円ずつ出し合って活動をスタート。「まずは何かやってみよう!」ということで



- ・ 手作りの案内看板の設置
- ・ 立ち寄り処の整備
- ・ 地域の野菜や手作り作品の販売
- ・ 月一回の「居酒屋」開催

など、「できる人ができることをする」という考えで、小さな取り組みを積み重ねてきた。また「吉縁起村新聞」を発行し、まちのちょっとしたニュースや自分たちの

活動を知らせることで住民同士のつながりがより深まっていった。

高校生や大学とも連携し若者の意見も取り入れ、将来を担う世代にこの活動を知ってもらい次につなげることも考えている。

### 3.外からの視点が、地域資源を掘り起こす

「よそ者の視点」を大切にしていたことも印象的であった。地域へ移住してきた方が、地元の人にとっては当たり前になっていた自然や景観、地名などに新たな価値を見出し、それらを地域資源として活用していた。

### 4.地域振興は、経済性だけでは測れない

無人店舗の運営や特産品販売などにも取り組んでいたが、地域振興事業は必ずしも採算が取れるものではないとの事であった。現状は、活動してくれた地域住民への日当を全額支払わず、ボランティア精神に頼ることで、持ちこたえているのが実情であった。

しかし、住民の皆さんは、利益だけを追求するのではなく「どこまで地域として負担を受け入れるのか」、「何を地域の価値として残していくのか」を話し合いながら活動を継続していた。地域づくりには、経済的な効果だけではなく、住民同士のつながりや生きがいの創出という大きな価値があることを改めて感じた。

## 5.農村 RMO の成果と今後の課題と展望

成果としては

- ・ 交流人口の増加
- ・ 耕作放棄地の活用や特産品開発の推進
- ・ 無人スマートストアの導入やデマンド交通の運営による生活支援
- ・ 住民アンケートでは「地域が活性化した」と答える人が、3年前の83%から93%

へ上昇

などが挙げられる。

今後の課題と展望としては

- ・ 無人スマートストアの経営安定化
- ・ 次世代の人材育成
- ・ NPO 法人としての自立運営
- ・ 特産品開発をさらに進め、ネットでの販売にも力を入れ、販売実績向上を図る



## 6.新城市への示唆

本市においても人口減少や少子高齢化などが進み、状況は真庭市ととてもよく似

ている。今回の視察を通じて、地域活性化は大規模な投資や特別な施策だけで実現するものではなく

- ① 住民同士のつながりを再生すること
- ② できる人ができることからという、小さな取り組みを積み重ねること
- ③ 外からの視点を柔軟に取り入れること
- ④ 人口減少を前提とした持続可能な地域づくりを進めること

が重要であると学んだ。吉地区の取り組みは「人口が減っても地域のつながりは再生できる」ということを示す先進事例であり、本市の中山間地域政策を考える上でも大変有意義な視察であった。

個人的に一番印象的だったのは、お話をしてくださった鈴木さんがとても楽しそうだったこと。自称「ちょいワルじいじ」の踏み出したはじめの一步から、皆さんが楽しんで活動してきたことが良い結果につながっているのだと思う。まだまだ課題もあるし、足りないものもあるが、在るものに目を向けて面白がってやることで心がワクワクし、それによって空気が明るくなり、結果良い方向に向かっていくのだと思う。